

災害時に物資供給

バロー、県警と協定締結



災害時の物資供給に関する協定を結び、握手を交わす岡真臣本部長と篠花明常務(右)＝県警本部

大規模災害に備え、県警は5日、東海地方を中心にスーパーやドラッグストアを展開するバローホールディングスと、災害現場での救出救助活動に必要な物資を供給してもらう協定を結んだ。

大規模災害時、人命

救助、救出の部隊を投入する際、大量のスコップやブルーシートなどの資機材のほか、警察官に補給する食料、医薬品の迅速な確保が課題となる。

このため、県警は2007年9月、全国に

先駆けてカーマと、昨年8月にはNPO法人コメリ災害対策センターと協定を締結。東日本大震災では、協定に基づいてチェーンソーやスコップなどを供給してもらい、広域緊急援助隊の活動に役立った。

警察庁によると、ほかに神奈川、愛知、福

井、高知、青森、徳島、静岡県警も民間業者と災害時における物資供給に関する協定を結んでおり、全国に広がりを見せている。

県警本部で開かれた

締結式では、県警の岡真臣本部長と、バローの篠花明常務が協定書に調印した。岡本部長は「大規模災害はいつでもどこで起こるか分からない。しっかりと態勢を整えたい」、篠花常務は「防災、減災に対応して地域に貢献したい」と話した。

バローは大垣市と可児市に物流センターがあり、レトルト食品やパンなどの食料品のほか、医薬品、日用品を一カ所で大量に調達できる。

(根尾文悟)